



「'95ひまわり集大成 サテライトアイズ」

日本気象協会、1997年2月、
定価3,900円

気象衛星「ひまわり」が打ち上げられて20年以上が経過した。国民にはアメダスと並んで最も身近な気象観測システムのひとつとなっている。特に衛星画像の動画は、雲の動きを通して大気ダイナミックな流れを展開してくれる分かりやすさのため、テレビにおける天気解説に不可欠なものとなっている。一方、衛星画像は含まれる情報量の多さから、一般の人ばかりでなく気象関係者でも扱うことが難しい資料だった。

ここで紹介する「サテライトアイズ」は、その衛星画像を収録したCD（コンパクトディスク）である。厳密には本欄で紹介する書籍ではない。しかし書籍を知識・情報の伝達手段と規定するならば、その媒体は紙である必然性はない。特に大量情報の蓄積・伝達・検索にCDは有効な手段として一般化している。こうした流れの中で衛星画像を扱ったCDが登場したのは、当然のことである。

ところでパソコンが得意でない人には、ソフトの起動を最初の障害とを感じるらしい。嬉しいことにサテライトアイズはCDをトレイに差し込むだけで自動的に起動する。あとはマウスをクリックするだけでよい。メニューは2つある。ひとつは「ダンシングクラウド（雲のダンス）」。1時間毎の赤外全球画像をつなぎあわせ、1年間の雲の動きを約18分の動画に表現したものだ。陸地は緑と茶、海は青、雲は白～灰で色づけされている。もうひとつは「'95ひまわり集大成」。データベースとして、全球画像6時間毎（1日4枚）と日本周辺画像1日1枚の赤外画像が収録されている。画面には衛星画像とその日の日本周辺の気象に関する解説（雑誌「気象」に掲載されている天気図日記の解説にほぼ同じ）が和文と英文で示される。

動作に必要なソフトウェアはMS-DOS6.2以上、Windows3.1、Windows95。動画等のスムーズな動作を確保するため、CPUはPentium 133 MHz以上、メモリーは32 MB以上、CD-ROMドライブ装置は6倍速以上が推奨となっている。

「ダンシングクラウド」は、大量データを素早く取り扱えるCDの特性を十分に引き出した見事な出来ばえ

となっている。赤道上空約3万6千キロからみた地球とそこに浮かんで消える雲の振る舞いが示される。ディスプレイが宇宙船の窓のようだ。ヒマラヤで、熱帯で、太平洋で、雲が地球を舞台に躍動感あふれる踊りを披露する。さらにこの踊りを演出するかのようには音楽が流れる。小松重次氏の作になる曲は宇宙の深遠さと季節の移ろいを感じさせる。疲れた頭脳にはオアシスの安らぎを与えることだろう。

「データベース'95 ひまわり集大成」も1年の画像や気象トピックスを手軽に検索できる作りになっている。日付で検索できることはもちろん、現象毎に分類されている。「梅雨型」「台風」「大雪」「大雨」「雷と雹」「強風突風と竜巻」「高温と低温」「気象災害」「外電」「トピックス」に分類された項目は、その年に発生した主な気象トピックスが網羅されている。あえて注文するならば、動画に比べデータベースのコンセプトが不明瞭だ。気象解説を和文以外に英文でも載せる意図が理解できない。むしろ天気図や天気実況を載せたほうが役に立つと思うのだが。また画像左上に示される日付の数字が小さく読み取りにくい。ニーズが多様に対応は難しいだろうが、もう一工夫して面白いデータベースに仕上げてもらいたい。

このCDは、一般の人にも無理なく扱える。専門家以外の人にも衛星画像の楽しみを広める意味で、この企画は成功している。ただ衛星を使って雲の解析をしたい人にとっては物足りなく感じるかもしれない。しかしこれはあくまで1年分の大量のデータを要領よく検索できるようまとめたところに意義がある。更に踏み込んだ調査を望む人には、気象衛星センターから気象衛星月報がCD-ROM版となって1996年7月から出版されているので、この利用をお薦めする。これには毎月1枚のCDに日本周辺の毎時の赤外・可視・水蒸気画像が収録され、これら画像を表示するための簡単なソフトも添付されている。このCDは気象業務支援センターから発売されている。

なにはともあれ、サテライトアイズは気象関係者以外の人にも見てほしい。雲の動きが鼓動のようで、地球を生命体とを感じるかもしれない。その時、人は地球上に共生する人類として、温暖化問題など地球への責任を痛感するだろう。

（気象衛星センター 鈴木和史）